

●木津川希少種植生調査管理業務の除草作業 順調に進む

秋の除草作業は八幡市の部分と木津川市の部分の南北の遠い所は一応除草作業が終わりました。これからは京田辺市を中心にした場所を中心にした部分にかかわってきます。この調子で順調な天気が続いてくれると予定した日程で刈り取れるはずだろうと思われます。

●同志社大学サッカー部ボランティアさん 25人ずつ2日間の派遣の段取りに懸命な準備中

里山農園の柿をデザートに使用してはなどの意見がありました。里山の会は何処も斜面で刈草の収集には体の維持を保ちながらの作業は高齢者にとって厳しい作業です。里山の会は以前木津川堤防で絶滅危惧種とされている植物の生育場所を100カ所以上確認しています。そのうち8種が絶滅寸前種と指定(京都府)されているのでその保全のための生育維持管理を行ってきました。そこで最も困難な作業が集草作業でした。昨年同志社大学サッカー部ボランティアのグループがお手伝いに来てくださって絶滅寸前種の生育維持にご協力をいただくことになりました。日頃スポーツ活動で体を鍛えておられるので少々厳しい作業は平気でこなされていくことに大変驚かされました。今年も大変お世話になりますがよろしくお願いいたします。不十分ですが出来る範囲でしっかりご要望に応えられた準備をしていきたいと思っています。



●交通事故が発生 除草作業への途中 後方面の不確認 後続車の警告音認識できず

昨年に引きつづいて交通事故が発生しました。今度は一旦停車して、行き過ぎたのでバックをしたところ後続車の前部に押し当てることになったようです。幸いに人身事故になるような衝突ではなかったので物損事故での対応となりました。この事故で助手席の同乗者はクラクション音が聞こえたとのことですが運転者は聞こえなかったとのこと。それぞれ高齢者になって来ましたので体の機能低下も考えられます。さらに注意しての運転が必要になるのではないのでしょうか。日頃色々とお世話になっておりますが同乗者も運転手並みの緊張が求められるということを学び合いたいと思います。

●京の川の恵みを生かす会の食味会 お馴染みの皆さん来所

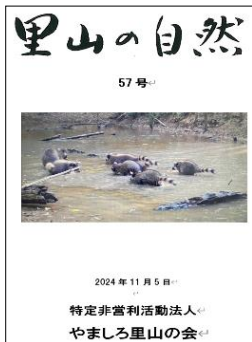
昼前に竹サインペンの製作に来られた木下さんを無理やり誘って食味会に行ってきました。当日は非常に良い天気で会場の芝生での集いには絶好の陽気でした。いつものように竹門先生のできばきとした手さばきで刺身が造られました。そして全国各地で「アユ」を釣り上げられてきた鴨川漁協の澤さんがてきばきと解説をされて全体の食欲を誘っておられました。今日のために先日の木津川



での魚とりを取材に来られていた三池親禄さんが動画を見せてくださいました。見事な作品でした。また大阪からお越しになっていた小原圭一郎さんも同様に動画を製作されていました。話し合ううちに竹サインペンについて、いろいろ工夫やヒントをいただきました。それぞれが好みのアユを焼き満腹したころにグループごとのサークルを回って、竹サインペンの説明と普及宣伝に訪ね歩きました。皆さんが焼いた木炭はやましろ里山の会が生産したもので、今持ってきた竹サ

インペンは里山の会が製作したものと話してみると、30 人ほどの方がご理解していただき協力金をいただきました。

●会誌 57 号印刷進む 製本と郵送、手配りの手配 184 頁



この度の会誌の原稿募集に数名の方が応じてくださりご協力いただきました。これまでの取組の中で最も原稿が集まりませんでした。もうすぐ結成 30 周年を迎えることになり、現在在籍の会員さんすべてに登場をいただこうと意気込んでいたところ、まさかの事態になってしまいました。これからどのように盛り上げて行こうか悩ましい所です。皆さんからもこの状態突破のお知恵を拝借させて頂けないでしょうか。今回 57 号は苦心に苦心を重ねた編集になりました。

●アライグマ学習会の現場下見に来所 京都府自然環境保全課 中島さん

これまでイノシシによる被害が心配でその対策に頭を悩ましていましたところ、カボチャがしっかり食べられる被害が発生しました。イノシシの食物にしているのかそうではないらしい兎だろうかと思案をしていました。夜間撮影カメラの撮影ではアライグマだと判定され、檻での捕獲以外の方法は見当たらないとの結論で京田辺市の農政課から借用してキャラメルコーンが餌に最適との助言で試みましたがサッパリ捕獲が進みませんでした。工夫をしてバナナを加えてみますと 3 匹を捕獲出来ました。これで大丈夫との判断で檻を返却した後、8 月 9 日のカメラに 6 匹が一度に撮影されました。それも昼間の出来事でした。



竹蛇籠製作講習会 参加者募集

最初の取組として 2015 年 10 月に木津川 15.2 km に兩岸に竹蛇籠 6 基を設置しました。この取り組みから竹蛇籠の素材は 7m



の長さで太さ 18 cm の真竹の 4 分割された真竹(幅 45mm)で出来るだけ同寸法の素材の必要を学びました。そこで竹割機が必須と分かり、高橋式を製作して竹割の重労働から解放された。そして素材を曲げるための「ひび入れ」のダンバーを用意して「節を取る作業」を実行して、素材を確保できたのです。しかし幅精製機は完全な形で作り上げられていないのが現状で、改善の余地を残しています。いまだ機械化が出来ず手作業に頼っています。

◎第一日 11 月 17 日(日) 竹蛇籠の製作 3 本(6m 物)

9:30~12:30 講習会場 木津川右岸玉水橋東詰め広場

◎第二日 11 月 24 日(日) 竹蛇籠の製作 3 本(6m 物)

9:30~12:30 講習会場 木津川右岸玉水橋東詰め広場

(JR 奈良線 玉水駅下車 西方へ徒歩 10 分)

参加申し込み メールにて受付 (fddb257@yahoo.co.jp)

氏名・住所・電話番号・参加方法をお知らせ下さい。

参加費無料、参加制限なし、当日飛び込み参加歓迎

主催 NPO やましろ里山の会

京都府植物園での講習風景

